

もう始まっています！ 個性豊かな民泊宿が続々

自分の家の使っていない部屋や敷地内の空き家を活用して宿泊客を受け入れる民泊宿。チャレンジする方も増えています。あなたも始めてみませんか？



家族連れも安心して泊まれるようにと、子育て支援員の資格も取得した原さん。

民宿 蔵

〒吉田町長屋828 ☎43-0881



令 和元年7月、自宅の敷地内にある空き家をリフォームして民宿を始めた原ひとみさん。基本的に素泊まりで大人1泊3,000円、小学生以下1,000円という良心的な価格で宿を提供しています。大工の傍ら農業を営むご主人は米や野菜を栽培。農作業を手伝ってくれた方には無料で宿を提供するユニークなシステムを導入し、収穫した野菜を使ったピザや羽釜で炊いたご飯などを振る舞っています。「農作業が忙しい時期はこちらも人手がほしいし、農業を体験してみたいというお客さんと利害関係が一致するんです。農業を通して土地の暮らしを体験してもらえたらうれしい」と原さん。「もともと人に喜んでもらうことが好きで始めた宿。『ただいまー』と言って帰ってきてくれるリピーターに支えられています」と笑います。



昨年の「ゲストハウス開業合宿」でヒントを得て作った羽釜でご飯を炊ける場所。



「ピザづくり体験もできますよ」と栗栖さん。

友 人の紹介で市に1ターンした栗栖真理子さん。民宿を営みたいと物件を探していたところ、現在の宿、築100年の古民家に出合い一目ぼれしました。「子育てをしながらできるのが民宿の魅力。インバウンドにも対応できれば、自分自身の英語も生かせると思いました」と話します。古民家は昔の趣を残しつつ、現代風にリノベーションしたオシャレな空間。外にはピザ釜があり、バーベキューやたき火スペース、土間には薪ストーブや火鉢、お風呂はヒノキ張りの五右衛門風呂で田舎暮らしを存分に満喫できます。コンセプトは「Farm to Table」。自家菜園で収穫したばかりの野菜やジビエ料理が好評です。栗栖さんは「人と話すのが好きな私が、お客さまとの交流が一番楽しんでいるかも」と笑い、「毎日がとても充実しています」と話してくれました。



土間にある薪ストーブの火を眺めながら、のんびりと過ごすのもおすすめ。



宿泊客と同じ空間で生活。子どもたちもふれあいを楽しんでいます。

農家の宿 cherieの畑

〒吉田町山部103

<https://airbnb.com/h/cherie-no-hatake>

※予約はAirbnbからのみ



気付かなかったまちの魅力を掘り起こしてファンを作る！

暮らしていると気付かないけれど、市外の方が見るととても魅力的なコトやモノ。わたしたちが暮らすまちには、そんな宝物があふれています。そんな市ならではの魅力的な資源を生かした民泊や体験プログラムを中心に、温泉施設や飲食店、産直市など、市内を巡ってもらい、ファンを増やす取り組みが進んでいます。さまざまな取り組みがある中、今回は民泊にスポットを当てました。まずは、全国各地でその土地ならではの暮らしの魅力を見つけるストーリーメーカー・中村あつよしさんにわがまちの魅力について伺いました。

農山村の魅力



中村 あつよしさん

NPO法人アースキューブジャパン代表理事。ゲストハウス開業合宿主催者として車で交流できるゲストハウスを全国に広めた。古民家活用、地域おこし協力隊のメンター、インバウンドに関する講演やセミナー等、全国で活躍。

発信する民泊宿

「やりたい」を貫く暮らしそのものがアートに
安芸高田市はひと言で言ってしまう「暮らしのアート」と「暮らしの美術館」があるまち。糸紡ぎをして暮らしている通称「魔女さん」、世界の珍しい種を300種類も取り寄せて、畑に植えて楽しんでいる夫婦、セルフビルドで工房を建ててしまった女性陶芸作家さん、日本で唯一の五右衛門風呂を作る工場、家も心も温まる薪ストーブをオーダーメイドで作ってくれる工場、文字盤の文字まで手作りする腕時計職人など、ここにはアートのような暮らしを営む方がたくさんいます。自分の好きなことを具現化する方たちの暮らしは、都心で忙しく生活している方たちにとって、とても魅力的に映ります。その暮らしをアートに見立てて、それを

美術館のように連続して体験できる「暮らしの美術館」は、こうした方たちが市を訪れる大きなきっかけになるはず。また、その土地の何気ない暮らしが体感できる宿があると人々が集まってくる。民が民をおもてなし、車座での交流も生まれて、宿を中心に地域が活性化している様子をこれまでたくさん見てきました。こうした点から私は、宿には地域の入口や、迎賓館としての役割もあると思っています。
市民の皆さんと一緒に市の魅力を全国に発信したい
なぜ「暮らしのアート」が息付しているかを考えると、キーワードは「山」ではないかと思えます。広島市内に比べると交通の便が悪くハッピーがあるように感じますが、逆にそれが自分の生業に集中できる環境を作っているように思っています。ちょうどいい不便さが豊かな時間も生み出しているのではないのでしょうか。私が願うのは、暮らす人が自分のまちを誇りに思うこと。市の魅力を市民の皆さんが再確認し、自慢できるまちになる一翼を担えたらうれしいです。

増えています

民泊やってみようかな

と思ったあなた！
まずはイベントに参加してみませんか？

安芸高田市民は参加費無料

ナリワイカレッジ

日時/1月16日(土)、17日(日)

美しい自然のある私たちのまちには、知恵や工夫によって素敵な暮らしを実践している方がたくさんいます。そんな素敵な場所で、将来叶えてみたい自分のライフスタイルに合ったナリワイづくりについて考えてみませんか？同じ志を持った仲間にも出会えます。

申・問 安芸高田市農泊推進協議会 事務局：一般社団法人安芸高田市観光協会 ☎47-2550

ファームステイ・ゲストハウス開業合宿

日時/2月19日(金)、20日(土)、21日(日)

ローカルだからこそその暮らしや仕事の魅力。自分オリジナルのゲストハウスやナリワイづくりの夢について考えてみませんか？素敵な暮らしを体感する合宿です。